



城の南側に海、東側に三之丸とその堀がはつきりと見えます。本丸を貫くように蒸気機関車が走っています(明治36年) 三原市歴史民俗資料館所蔵



# 築城450年 三原城

~小早川隆景が築いたまちの礎~

今年、小早川隆景が三原城を築城してから450年が経ちます。戦国随一の知将と呼ばれ、天下人豊臣秀吉もその実力を認めていた隆景。三原城主として隆景が築いた城下町は、市の中心市街地の礎となりました。節目の年、三原城と隆景の足跡を振り返り、まちの歴史に思いをはせてみませんか。



## 城と軍港 隆景の理想が形に

小早川隆景は天文2(1533)年、毛利元就の三男として生まれました。12歳の時に安芸の竹原小早川家の養子となり、その後、本家の沼田小早川家も継ぎました。群雄割拠の戦国時代、瀬戸内海の水軍に強い影響力を持つ小早川家の当主として、本郷の新高山城を中心拠点に、兄の吉川元春らと元就を助け、毛利家の中国地方統一に大きく貢献しました。

その頃の三原は、瀬戸内海の海路と山陽道が交わる場所として交易などが行なわれていたものの、決して大きなまちではなかったといえます。水軍を掌握していた隆景は、早くから三原の地の利に着目し、水軍の基地、瀬戸内海の防衛拠点としてここに新たな城を整備する構想を持っていました。

小早川家の家系図によれば、隆景は永祿10(1567)年に三原湾にあった



海から立ち上がる石垣など、浮城の面影を残していました(明治40年頃) 三原市歴史民俗資料館所蔵

大小の島をつなぎ、三原城の築城を始めたと伝わっています。石垣は当時の最新技術だった海底から石を組み上げる工法で築かれ、船舶が出入港する船入も設けられました。

城郭と軍港の機能を兼ね備え、隆景の理想が形となった三原城は、満潮時には海に浮かんでいるように見えたことから「浮城」と呼ばれ、豊臣秀吉や徳川家康もその堂々とした姿を褒めたたえたといわれています。



## 日本の西は隆景に 任せれば全て安泰

三原城主となった隆景は、時の権力者だった豊臣秀吉の厚い信頼を得て、伊予や筑前の統治を任せられるなど、信



三原浅野家の家臣 森秀之進が慶応年間に実測して作成した絵図。  
城郭に加えて、家臣屋敷や松の木まで精密に描かれています。

紙本著色備後国三原城絵図  
(江戸時代)個人所蔵

義ある知将として毛利家を支えました。  
秀吉は「日本の西は隆景に任せれば全て  
安泰」と言うほど隆景を高く評価し、自  
身の政権で政治の中核を担う五大老を

任じていました。また、隆景は天皇か  
ら從三位権中納言の冠位も与えられて  
います。これは水戸黄門で知られる徳  
川光圀と同じ冠位であり、隆景の実力

幕末の旗本 川路聖謨は、嘉永5(1852)年に三原城下を通行したよう  
すをこう書き残しています。  
「尾道から三原へ向かう途中は、大  
きな入り江になっていて、その大きさは  
十里(約39キロメートル)ばかりある  
という。所々に島が見えて、まるで絵  
のようだ。これまで(出発して)  
二十国余りを過ぎたが、自然  
の景色は舞子(兵庫県神戸市)  
の浜や須磨(同)、明石(兵庫県明石



### 隆景後 往時を しのばせる史跡

がいかにも高く周囲に認められていたか  
が分かります。  
晩年、豊臣家から養子に迎えた小早  
川秀秋に家督を譲った隆景は、三原に  
戻って隠居生活を送りました。慶長2  
(1597)年6月、急逝。死因は脳卒  
中だったといわれています。西日本を  
舞台に縦横無尽の活躍をした隆景です  
が、最期は生涯愛した三原城で静かに  
息を引き取りました。

市)も格別に思わなかったが、今日の  
景色は今までにない(素晴らしい)事  
で、驚いた。三原城は堀が入り江にな  
っていて、魚を捕らせていない。堀に  
鯛やそのほか海の魚がたくさん泳いで  
いる。櫓が多く造ってあり、石垣の高  
さも十間(約18メートル)ほどある。と  
ても立派であり、人々はみな驚いた」  
(要約・現代語訳)。江戸時代末期にな  
っても三原城は人々を圧倒する威容を  
誇っていたのでしよう。  
明治維新後、近代化の波の中で堀や  
城が面していた海は埋め立てられ、石  
垣の多くも取り壊されていきました。  
明治27年には山陽鉄道が本丸を貫く形  
で三原駅が開業。昭和になって旧城内  
や城下町の市街化が一段と進みまし  
た。今なお残る天主台跡とそれを巡  
る堀の一部、船入槽跡、本丸中門跡  
などが、往時の壮大さを今に伝えて  
います。

天主台跡を見守る  
小早川隆景像  
(JR三原駅西口)

